

# 知事記者会見の概要

日 時：令和4年4月6日(水) 14:00～14:30

場 所：502会議室

出席記者：14名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問に知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 代表質問

- (1) 制限の緩和と感染防止対策の両立について

### フリー質問

- (1) 代表質問に関連して
- (2) ウクライナへの支援について
- (3) 凍霜害による被害への対策について

<幹事社：山新・時事・SAY>

## ☆報告事項

### 知事

皆様、こんにちは。山形県もようやく春めいてまいりました。本日の午前中でありましてけれども、県庁におきまして「春の交通安全県民運動」出発式を執り行いました。新入生の児童・生徒がですね、交通ルールにまだ慣れない、そういう時期でありますので、ぜひ運転する皆さんも譲り合いの精神をもって、子どもたちの安全を守っていただきたいというふうに思っております。

次に新型コロナでありますけれども、本県の感染状況は、先週の30日、31日と新規感染者数が200人台となったのでありますが、その後は100人台で推移をしております。しかしながら、依然として3桁台ということに変わりはありませんので、まだまだ予断は許さない状況だというふうに捉えております。

全国でも、まん延防止等重点措置の全面解除の後、3月の連休や年度替わりで人の移動が増えたことなどから、感染者数は高止まりの状況が続いております。

新年度を迎え、今後も移動や人と接する行事などが増える時期でございますので、県民の皆様には改めて、不織布マスクの着用やこまめな手洗い、消毒、密閉・密集・密接の3つ全部を防ぐゼロ密、そして換気の励行など、基本的な感染防止対策の徹底をお願いしたいと思います。

また、県外へ移動する際には、事前・事後のPCR等検査の活用などをしていただきまして、「うつさない」「うつらない」行動を徹底してくださるようお願いをいたします。私からは以上です。

## ☆代表質問

### 記者

幹事社の時事通信です、よろしく申し上げます。新年度ですね、コロナ対策について伺います。先ほど、冒頭、知事からもお話があったようにですね、第6波が始まって以降、3桁台が続いているということで、少なくない人数の感染者が日々続いておりますが、4月1日から新年度が始まったということで、新学期であったりとか異動であったりとかで人の移動や交流の機会が増えているかと思えます。そうした中で、感染対策と社会活動や経済活動の両立のための取り組み、ウィズコロナのための取り組みについて、職場や教育現場で、新たに取り組まれることなどあればお聞かせください。

### 知事

はい、それではお答えいたします。全国では、年度替わりなどによる人の移動の増加やこれまでのオミクロン株よりも感染力が強いと言われているいわゆるBA.2系統への置き換わりが進んだことなどにより、新規感染者数の高止まりが見られます。本県におきましても、

BA.2 への置き換わりが今後、進んでいくことも懸念されますので、依然として予断を許さない状況にあるものと捉えております。直近の県内の検査を見ますと、約 3 割が置き換わっているということを聞いております。

一方で、本県における病床使用率は 20%台となっておりまして、重症病床使用率は 1 桁台で推移しております。そういったことから、直ちに医療提供体制がひっ迫しているという状況にはないものと捉えております。

なお、確保病床数ですけれども、4 月 1 日に 8 床増床しまして、現在 250 床を確保しているところであります。

また、本県における直近一週間の人口 10 万人あたりの新規陽性者数は、全国でも下から 3 番目と低い水準でございます。これもひとえに県民の皆様のご努力・ご尽力の賜物と深く感謝を申し上げる次第であります。

こうした状況を踏まえ、感染対策と経済回復の両立に向けて、当面の間は、病床使用率や重症病床使用率などの医療提供体制のひっ迫度合いを注視し、最大限の警戒をしながら、可能な限り日常生活を取り戻す期間であると考えております。

職場や教育現場におきましても、引き続き、業種別ガイドラインや教育委員会からの通知を遵守し、基本的な感染防止対策を徹底していただきながら、できる限り日常の活動を継続していただきたいと考えております。

また、ワクチン接種が感染防止対策の要であります。重症化防止にも有効であると考えておりますので、県民の皆様にはご自身のため、また、大切な周りの方々のためにも、希望される方にはできるだけ早く 3 回目の接種を受けていただくようお願いをいたします。5 歳から 11 歳のお子さんや、1 回目のワクチン接種を受けていない方、そういう方もこれからでも大丈夫でありますので、正しい情報をもとにご検討いただくようお願いをいたします。

記者

ありがとうございます。少し関連してなんですけれども、県庁内での取り組みについて 1 点お伺いしたくて、先般の記者会見のほうで知事が東京に出張された際に PCR 検査を活用されたということだったんですけれども、それ以外にもですね、PCR 検査の活用であったり、あと認証店の活用であったり、庁内で取り組んでいることがあればお伺いできればと思います。

知事

はい、今、記者さんがおっしゃったその 2 点は、大変大事なところがありまして、私ももちろん、職員も出張する前後にですね、PCR 等の検査を行ってきちんと確認をしてから、活動しております。

それから、送別会といったことも行いましたけれども、これから歓迎会といったことも行う予定であります。県庁ですと、そういう場合は、認証店を活用、あるいは認証されたホ

テルでありますとか、料亭でありますとか、そういったところを活用することとしております。

異動する際にはやはり、一定程度の期間を置いてですね、自宅待機をして、その間はオンラインでの出席というようなことで、会議などにも出席してもらっているということがございます。

記者

ありがとうございます。幹事社からは以上です。

☆フリー質問

記者

毎日新聞の神崎と言います、よろしくお願ひします。

新型コロナに関連して追加で質問させていただきます。山形県のほうでは、リバウンド防止の特別対策期間を設けるなど、まん延防止が解除された後も、再発防止に力を入れていたと思うんですけども、今日現在でコロナの新規感染者数が 196 人となかなか高止まりしているような状況が続いていると思うんですけど、この状況を知事はどのように捉えてらっしゃるのか、コメントいただきたいのと、新たな対策みたいなものを山形県のほうでは考えているのか、もし考えがあれば教えてください。この 2 点をお願いします。

知事

リバウンド防止特別対策期間の後、クラスター抑制重点対策ということをやってきました。その後は、それ（クラスター抑制重点対策）を実質延長していると言いますか、クラスターが発生すると感染がやはり広がるというようなことがありますので、高齢者施設とかですね、保育施設や学校、そういった所でのクラスター抑制ということに力を入れております。特に、高齢者の方は重症化しやすいというようなこともありますので、ワクチン接種を進めるのはもちろんなんですけれども、職員の皆さんなどに、抗原検査キットをお配りするというようなこともやりまして、できる限り早く発見をして、拡大するのを防ぐということを行っているところです。今、答えられるのはそのくらいです。

記者

何か、新しい対策とかこれから4月以降、ありますでしょうか。

知事

そうですね。高止まりしているというのが事実だと思っておりますけれども、ただ、この異動の時期ももうすぐ過ぎると思うのですけれども、その後やはり逆に学校生活というものも始まりますので、そういったことでもまた気をつけなければならないと。部活動と

かですね、いろんなことがまた起きてくるのかなと思いますので、やはり感染の状況というものをしっかりと見ながらですね、対策を行って行きたい。その都度その都度、籬（たが）を緩めたり締めたりしながらですね、しっかり行っていきたいと思います。

本当にこれが絶対的な拡大防止の特効薬だというようなことは、なかなか無いというのが正直なところかなと思っております。やはり、ワクチン接種ということを進めるということと、基本的な感染防止対策、ここがやはり肝要なのかなというふうに思っております。

記者

共同通信、阪口です。

1点、先ほどの発言に関連してなのですけれども、県庁のほうで送別会とか歓迎会をやられたということで、まだ市民・県民の中にはそういったことをしないほうがいいのではないかという雰囲気もまだ、根強くあると思いますけれども、そういった空気、空気というか空気感ということに対して、県庁が率先してやっつけていらっしゃるのかなというふうに思うのですけれども、どういう思いでそういったことをされたのか、また、県民についてどういうことを呼びかけられるのか伺えますでしょうか。

知事

はい。送別会とかですね、歓迎会、そういったことのシーズンであるわけなのですけれども、やはり県庁が率先してやってほしいという声を多々聞いたところであります。そうでないとなかなか一歩踏み出すことができにくいというようなこともお聞きしましたので、感染防止対策をしっかりとしながら、また、認証された場所であるということで、少しでも経済活動、経済回復に少しでも資するようというふうなこともあり、また、「隼（かい）より始めよ」というような気持ちもありまして、職員の皆さんには「できるだけ、送別会・歓迎会をやってください」というふうに申し上げております。

それに尽きるかなというふうに思っています。送別会とか、歓迎会とかですね、私はやはりきちんと感染防止対策を守りながらやってよろしいのではないかと思います。ただ、それを守らないで、どうしてもですね、やってしまうと感染というようなことにもなりますので、そこはやっぱり諸刃の刃になるかもしれないので、やはり感染防止対策をしながら実施していただきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。関連して、冒頭に「春めいてきた」とおっしゃっていましたが、花見のシーズンもまさにこれから来るというところです。花見は基本的に屋外が多いかなと思いますけれども、その辺り、知事はどのようにお考えでしょうか。

知事

はい、そうですね。今年の冬はとにかく寒かったし雪がたくさん降りましたし、県民の皆さんも桜の花見、そのほかいろいろな花が咲きますけれども、心から楽しみにしておられると思っています。花見は、私はして結構だと思いますが、本当に、桜の花は1年に1回しか咲きませんし、本当に雪の多い冬を越した桜は色が案外濃くてきれいなものです。ぜひ楽しんでいただければと思っておりますけれども。

そうですね、やはり、その際にやはり感染防止対策というものもしていただきたいなと思っております。やはり、どんちゃん騒ぎをしながらということになりますと。例えば、家族単位でだったらよろしいかなと、私は思っております。あと、しょっちゅう顔を突き合わせている、職場の同僚といった、この2つでありましたらば、大丈夫かなと思うのですが、ただ、しょっちゅう顔を合わせていない方々とのですね、飲食を伴う花見というと、やはりちょっとリスクが高いのではないかなと思われまますので、そういったことにも注意をしていただきながら、花見は楽しんでいただきたいというふうに思います。

記者

話題変わります。1点、昨日、ウクライナから避難民の方が日本に20名ですかね、来日されましたけれども、今、県として、県営住宅の提供に向けていろいろ出入国在留管理庁のほうに登録をされたといったことがあったかと思っておりますけれども、今、具体的なことで、受け入れられていないというふうに、先ほど伺ったのですが、もし状況が変わっていれば、それと合わせて具体的に何か受け入れる予定があるようであれば教えてください。

知事

はい。昨日5日に林外務大臣が、ウクライナからの避難者20名の方々とともに政府専用機で帰国されました。避難される方たちの受け入れは今後示される、政府の方針を踏まえながら、本県としましても、人道的観点から受け入れ支援を行ってまいりたいと考えております。

前回の定例記者会見におきまして、県庁内に私をトップとするウクライナ避難者の受け入れに関するタスクフォースを立ち上げて、2回会議を開催したということをお話しさせていただきました。

現在、関係部局におきまして、避難者の受け入れに必要な支援策と課題の洗い出しを行っているところです。まずは、滞在施設の確保ということで、県営住宅を山形市内に20戸程度確保しておりますが、今後、県内のほかの地域への住宅の確保が可能かどうかということにつきましても検討しているところです。

このほか、ウクライナの避難者支援等に係る相談窓口が、山形県国際交流協会でございます。

ます。具体的な受け入れを想定して、協会と通訳の手配のほか、日本語学習などの生活支援について準備を進めることとしております。受け入れを表明している山形市なども連携を図りながら、スムーズな受け入れが可能となるよう対応してまいりたいと考えております。

現時点で受け入れというような具体的な連絡はまだないというふうに聞いております。

記者

ありがとうございます。あともう1点。話題が変わるのですけれども、ちょっと、県警の件に関してなののですけれども、本部長の佐藤正顕さんが、ここで離任されると思うのですけれども、離任に際して離任会見を開かないまま離任されるような見通しなののですけれども、県民の信頼というのが、なかなか大事な警察行政のトップが代わるタイミングで（会見を開かないまま）離任されることは、あまり他県でも例はないかなと思うのですけれども、公安委員会の任命権を持つ知事としてどのようにお考えか、所感があれば教えてください。

知事

はい、佐藤本部長が、4月8日をもってですね、異動されるということはお聞きをしておりますが、記者会見を行うとか行わないということについては、ちょっと私、承知をしていなかったもので、現時点でお答えはなかなかちょっと難しいです。ちょっと確かめてみたいと思います。

記者

分かりました。ありがとうございます。

記者

NHKの岡野と申します。よろしくお願ひいたします。

先ほどウクライナの受け入れでですね、市内に県営住宅20戸確保されたと。これはいつされたか、いつ確保されたのですかね。

知事

具体的にですね、何日ということですか。

記者

最近なのか、結構前なのか、どのぐらいになるのかなと思って。

知事

受入れをすると言った直後あたりに聞いたと覚えがありますので、3月中だったかと記憶しております。(補足：県担当者より説明を受ける。) 3月下旬だそうです。

記者

下旬ですか。全部山形市内ということですね。

知事

はい、そうですね。

記者

はい。あと、先ほどの花見の件に関連してなんですけれども、ご家族とか普段顔を合わせている同僚だったら大丈夫じゃないかということなんです。これも特に人数制限とかも、知事のほうから何人以内でとかということはないですか。

知事

そうですね、ご家族は何人という制限はまずないと思います。職場の方も、例えば歓送迎会といった時にはですね、人数制限はないんですけれども、感染防止対策をしっかりとやっていただきながらということをお願いしておりますので、花見というと屋外でありますので、屋外でこういった感染防止対策ができるかなと思います。1.5メートルとか2メートル離れながらというふうになると、そんなに大勢の人数にはならないのかなと思います。そんなに広い場所で花見はしないかなと思います。

記者

知事としては、職場でやる場合は1.5メートルから2メートルぐらいは離れてほしいと。

知事

そうですね。換気はなっているんですけれども、密閉はなっていないということになりますけれども、ただ、密集と密接は避けてほしいというふうに思います。

記者

わかりました。では、普段あまり顔を合わせていない方とそういうことをする場合はそういう感染防止対策をきちんとして、そのことに留意しながらぜひやっていただきたいというところですかね。

知事

そうですね。普段お会いしていない方と一緒にということは、そんなに「ぜひ、やってくれ」ということではなくて、花見を皆さん楽しみにしておられたと思いますので、お一人あるいはご家族、また知り合いの方とそぞろ歩きというような形で楽しんでいただく分には大丈夫なのかなというふうに思っています。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

山形新聞の田中です。ウクライナに関して私も1点お聞きしたいと思います。

県としては、出入国在留管理局のほうに、県としての支援の登録を既になさったというのは前回の会見で知事からお伺いして、県営住宅20戸確保ということだと思います。そのほか、例えばですね、県内で昨年の東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンに絡んでですね、西川町とか鶴岡市なんかはモルドバ、これ、ウクライナ隣国の避難先になっている国ですけども、そういったところへの支援の動きなんかも今、出始めているところです。

そうした意味で、例えば避難者の受入れということもさることながらですね、そういったオリパラのホストタウンとか、本県でも自治体によっても例えば友好都市とか姉妹都市とかたくさんあるかと思うので、そういう避難先になっている隣国あたりへのですね、県としての避難支援のあり方であるとかですね、例えばその自治体と連携して何かできるかを検討しているとか、そういった動きとかお考えというのは、何か県としてあるのか教えていただければと思います。

知事

はい。具体的なことは聞いていないんですけども、ただ、私としてもそのオリンピック・パラリンピックの時のですね、ホストタウン、本県は非常に市町村の皆さんが熱心に取り組んでくださいました。県も連携したところであります。それが土台となってこれからもね、友好関係を築いていくということは非常に大事なことだと思っておりましたので、今回、今記者さんがおっしゃったような動きがあるとすればですね、そういった市町村と一緒に県も連携してどういうことができるのか、タスクフォースのほうでも検討してもらいたいというふうに思います。

県営住宅というのは限られているところでありますけれども、それぞれの市町村でやはり宿泊施設があるかもしれませんので、そういったことも考え、また、やはり言語の壁というようなことが一番大きいのかなと思います。英語というようなことではないので、やはり言語をどうやっていくかというようなことをやはり最初に立ちはだかる課題かなというふうに思っていますので、そういったふうにはできるのか、タスクフォースのほうでね、検討を

始めてもらえればというふうに思います。

記者

ありがとうございます。

記者

河北新報の栗原です。よろしくお願いいたします。

昨年の4月に凍霜害が発生して、今月で1年になります。改めて当時の被害への受け止めと、今後、今も様々マニュアルを作るなど対策打ってますけれども、仮に発生した場合の対策など何か今考えていることがあったら教えてください。

知事

はい。本当に昨年の凍霜害の被害はですね、過去に遡っても例がないほどの大きな被害があったというふうなことであります。確か130億円ほどに、額にすればそのようなことになって、また本県の主力、スターとも言えるさくらんぼですとか、様々な果樹に大きな被害が発生しました。

これは本当に大変なことでありまして、そのあとですね、被害が起きやすいところのマップとかいろいろなものを作ってもらったり、分析したり、いろんなことに取り組んできてもらっております。

最近も確か報道されたかと思うんですけども、確か県内でかなりの箇所に低温注意報みたいなものが察知できるそういったシステムをですね、設置したということですので、そういったことも活用していただきながら、また本当に毎日のお天気予報をですね、注意していただいて、本当に今からが心配であります。急に気温が上がってきて、そして大変良い季節ではありますけれども、時々グッと気温が下がったりしますので、今年もまた霜が降りるんじゃないかというようなことで本当に私自身も心配をしておりますし、生産者の皆様は気が気でないと思いますので、やっぱりそういった新しいシステムといったことも活用していただきながら、なんとかその被害が発生しないようにですね、乗り切っていただいて、「やまがた紅王」のプレデビュー、これを無事に迎えたいなという思いでいっぱいあります。

記者

ありがとうございます。

記者

さくらんぼテレビの阿部と申します。よろしくお願いいたします。

すいません、一部重複してしまうんですけども、新型コロナウイルスについてなんです

が、やはり春休み前は学校でのクラスターが非常に多かったと思うんですけども、新学期というところでピンポイントで何か対策でしたり、あるいは教育機関に関する呼び掛けなど、ございましたら教えていただけますと幸いです。

知事

はい。教育委員会のほうではやはり新学期が始まることについてですね、しっかりと準備をしておられるかと。それぞれの学校でももちろん準備をしておられると思いますし、県立学校は県でありますけれども、小中学校は市町村の教委であります。教育委員会ですね。そういうところでやはり感染、クラスターが発生しないようにというようなことでしっかり対応していただいているというふうに思っております。

今、無症状というようなこともありますので、万が一発生したりしたらなるべくそれが拡大しないように、本当に連携してしっかりと取り組んでいくというようなことで、拡大していくのを防ぐということで本当に力を合わせて乗り切っていきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。